情報おきたま

置賜教育事務所指導課
令和4年3月 No.116

本人・保護者の願いを「個別の教育支援計画」につなぎ、関係機関がつながり合って
切れ目ない支援で子どもの自立と社会参加を目指す

　学習指導要領総則では、特別支援学級に在籍する児童生徒や通級による指導を受ける児童生徒について、支援計画等の作成・活用が義務付けられました。また、通常の学級に在籍する通級による指導を受けていない障がいのある児童生徒についても、その作成・活用に努めるものとされました。置賜管内においても、作成数が増加するなど確実な成果が出ていますが、今後も一層の作成・活用・引継ぎの推進が求められます。

「個別の教育支援計画」の作成・活用・引継ぎに関してお答えします！

そもそも「個別の教育支援計画」とは何ですか？

早期からの教育相談を含む就学期から学校卒業までの長期的な視点に立って、一貫して的確な支援を行うことを目的として作成するものです。医療、福祉などの関係機関の取組みを含め、その子どもに関わる方々がそれぞれの立場でできる支援策等を明記したものです。

なるほど！そういえば「個別の指導計画」もありますよね。違いは何ですか？

「個別の指導計画」は個々の子どもの実態を的確に把握し、学校での１年間の指導について、個々に応じた指導目標や指導内容・具体的な手立て、評価などを単元や学期ごとなどに記述するものです。

それぞれの目的に応じて役割が異なるのですね。

なぜ「個別の教育支援計画」を引き継がなければいけないのですか？

一貫性のある支援を継続するためです。子どもの育ちには長期的な視点が必要であり、その過程で支援者が変わっても「個別の教育支援計画」が引き継がれていれば、継続した支援が可能になるからです。幼保→小→中→高校と切れ目なく引き継ぐことが大切です。

わかりました。ちょうど今は評価の時期になっています。
評価、見直しをして確実に次年度につなげていきたいと思います！！

はい。年度末に保護者や関係機関と支援目標に対する達成状況の確認や課題、有効であった支援内容、今後の支援の方向性などを共有する場を設けましょう。支援計画等について、作成することを目的化しないことが重要ですね。

　特別な支援を要する子どもたちに「個別の教育支援計画」をもとにした、学校や保護者、関係機関の共通理解による効果的な指導・支援が行われるとともに、進学先の学校へ確実に引き継がれ、必要な指導・支援が継続し、特別な支援を要する子どもたちの学校生活が充実することを期待しています。
　県教育委員会において「個別の教育支援計画の作成と活用について」リーフレットを作成しましたので、こちらも参照ください。

特別支援教育について
（山形県ホームページ）

令和4年2月17日(木)開催

第3回教育マイスターベーシック研修より

一年間の実践
ありがとうございました！

今年度「教育マイスター」の実践を通して、学校としての成果や新たに見えてきた課題などを協議していただきました。またさらに学力向上・校内研究の充実を図るために、参考としての講義を行いました。

今年一年間の成果(話し合いより)

○管理職･研究主任との連携により、効果の広がりがあった。
○日常的なOJTの導入や授業公開を行うことで、組織として授業改善を図ることができた。
○学級経営の基礎基本･学習規律の徹底等、土台となる指導の再確認ができた。
○「つけたい力」の明確化と見取りを重点化した授業スタイルの構築を図ることができた。
○授業を参観し合うことで、若手とベテランそれぞれからの学びがあった。

各学校今後の課題(アンケートより)

○児童生徒が「自ら学ぶ」ための動機付けや主体的･意欲的に向かう態度の醸成。
○児童生徒の学力差に伴い、一人一人のニーズに合わせた授業づくり。
○学力向上につながるICTの活用と個別最適な学びを充実させる手立て。
○「指導と評価の一体化」の日常化と校内研究の検証の方法。
○授業スキルの「見える化」による共有と組織的な授業改善･指導力向上。

今年一年間の実践により様々な成果をあげていただきました。それと同時に改めて現在の小・中学校での課題も見えてきました。学校で育成する資質・能力を明確にし、組織として授業改善を図り置賜全域の学力向上につなげていきましょう。

☆当日の講義をYouTubeにアップしました！

年度末年度始めの校内研究会等にご活用ください。

講　義　名	URL･QRコード
「学力向上につなぐOJTのコーディネート」 ～今年度の課題を踏まえて～ 講師：置賜教育事務所　学力支援アドバイザー　小林英喜	https://onl.la/KQWzwjL
「校内研究の充実を図る『指導と評価の一体化』」 講師：置賜教育事務所　指導主事　飯沢　徹	https://onl.la/pD2uqey

○アンケートより

○若い先生方にはヒドゥンカリキュラムの考え方を伝えたいと思いました。「指導と評価の一体化」についても大切なことなので、もう一度全員で共通理解したいと思いました。

○学習者の視点から授業を検証していくこと、教師が「どう指導したか」ではなく児童生徒が「どう学んだか」という視点で授業改善を図っていきたいと思いました。

○単元計画の作り方、指導に生かす評価と、記録に残す評価との区別をすること、学校目標と学校研究の目指す児童生徒像を合致させること、授業の目標の具現化、「何ができればいいか」「何が分かれば良いか」を明確にして授業改善を進めていきたいです。

「考える力」を育む授業づくり研究会
＆学習指導研修会

ー　令和3年度　研究テーマ　ー

「つけたい力を明確にした、教科特有の見方・考え方を働かせる授業の実践」

今年度、新学習指導要領が全面実施となりました。コロナ禍と重なり、授業を参観しての研修会がなかなかもてない中、今年度の「学習指導研修会」は多くの先生方に学習指導要領の考え方を踏まえた授業を見ていただく最良の機会となりました。今年度は上記のテーマを踏まえ、「国語」、「算数・数学」、「理科」の３教科で**『つけたい力は何か』**、つけたい力を育むための**『働かせたい見方・考え方とは』**、その授業を通して**『その力は付いたのか』『付いていなければどう補完するか』**を大事にした授業実践をしていただきました。加えて、各教科とも、小・中学校教員の合同チームで授業づくりを行うことで、**『学びの系統性』**にも考慮した実践となりました。さらに、３教科ともつけたい力の一つに**「根拠を明確にして説明する力」**をあげたことで、教科の枠を超えてつけたい力を育成するための授業の具体を示していただいたことも素晴らしい成果と捉えています。

下記に３つの実践についてまとめました。これらの実践は、今年度の「おきたまの教育：重点１」、「考える力を育む授業づくりのスタンダード」、国立教育政策研究所の『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』に基づいた実践となっており、学習評価、指導案の形式等においても提案性の高い実践となっております。指導案はＨＰに掲載していますので、ぜひご覧になって先生方ご自身の授業実践に活かしていただければと思います。

【実践の概要】　◎：授業者

≪　国語　≫（中学校第１学年で実施）

研究員：◎吉川　和宏　教諭（高畠町立高畠中学校）
　　　　歌丸　詩織　教諭（米沢市立第五中学校）
　　　　守谷　晶子　教諭（白鷹町立東根小学校）

単元名　◆根拠を示して説明しよう　資料を引用してレポートを書く
　　　　　～中学生　生活向上レポートを作ろう！～

働かせたい見方・考え方　◆根拠を明確にするために、事実や情報を比較、分類、関連付ける。

ICTの活用　◆PCを使ったアンケートの実施と集計、アンケートによって得られたデータの整理や図表作成、レポート作成、参考文献の検索等

成　果　○根拠を明確に示すために、生徒自身が検証・推敲するための観点を示すことで、主体的に学ぶ生徒の姿につながった。また、自分の考えや他者の考えを比較して考えを広げたり深めたりする姿が見られた。
○本単元ではPCを使ってレポートを作成した。記述や推敲といった「書く」領域においてもICTの活用は効果的であるので、そのよさをいかして積極的に活用したい。

【参加者の感想より】

中学校の授業を見せていただき、小学校からの積み重ねが大切であることがわかりました。「根拠を示して説明する」ということも小学校低学年から行っていきたいです。系統性を大事にした授業づくりを学ばせていただきました。

ICTを活用した授業づくりがとても参考になりました。教科特有の見方・考え方に迫るために有効なICTの活用について考えることが出来ました。特に、書く事に苦手意識のある子供に、ICTの活用は有効だと思いました。

つけたい力を明確にし、そのためにどのような見方・考え方を働かせるのか、単元レベルで考えていきたいです。

≪　算数・数学　≫　（中学校第2学年で実施）

研究員：◎加賀谷　広大　教諭（米沢市立第一中学校）
寒河江　　忍　教諭（南陽市立沖郷中学校）
松木　壮一朗　教諭（白鷹町立鮎貝小学校）

単元名　◆図形の調べ方

働かせたい見方・考え方　◆根拠となる事柄に着目し、図形の性質等を論理的に考察する。
◆説明等の過程に着目し、新たにわかる事柄や性質等を考察する。

ICTの活用　◆ICT端末による評価問題

成　果　〇一時間ごとや単元末に「つけたい力が付いているか」を評価問題等で適切に見取る授業の具体を示すことが出来た。
〇レディネステストや評価問題等で生徒の実態を把握し指導に生かしたり、働かせたい見方・考え方を意識して授業展開を工夫したりしたことは、生徒につけたい力を付けるうえで有効だった。

【参加者の感想より】

生徒のより深い学びを期待する場合、その考える材料となる事柄を吟味したり提示したりすることで、生徒が自由に使いこなせるようにしておくことが大切だと思いました。

「つけたい力を明確にすること」が、目標をはっきりさせ、指導の在り方を考え、何をどう評価するのかにつながることを、授業や指導案から実感し、学ばせていただきました。

単元を通して評価し、指導と一体化させること。その中で、指導にいかす評価を適切に行っていく必要性を強く感じました。

≪　理科　≫　（小学校第4学年で実施）

研究員：◎石黒　智啓　教諭（長井市立豊田小学校）
瀬野　俊彦　教諭（米沢市立万世小学校）
梅津　佑妃　教諭（高畠町立高畠中学校）

単元名　◆電流の働き

働かせたい見方・考え方
◆問題解決の過程を通して、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する。

ICTの活用　◆学習支援アプリ「ミライシード」とタブレットのカメラ機能を活用したワークシートの提示等

成　果　〇既習の電流の向きや電池を扱う生活経験の知識を基に、根拠をもって予想を立てる児童の姿が見られた。
〇根拠をもって予想をする時間を十分に取ることで、自分なりの視点を持って実験に臨む主体的な姿につながった。

【参加者の感想より】

子供の思考の流れに沿った問題解決の流れを組むことの大切さや、タブレットの活用によって授業の効率化や活動の充実につながることを学ばせていただきました。

全体で共有する内容をしぼったり、単元の構成を工夫したりすることで、つけたい力に迫る授業づくりができることを学びました。予想を大事にした授業を仕組む重要性も、見せていただきました。

理科における見方・考え方とともに、各学年における問題解決の力の段階的な育成について、自分の授業でも取り組んでみたいと思います。

3つの授業の指導案は
こちらのQRコードからも
ご覧になれます。
ぜひご活用ください。

https://onl.sc/PtKtiUA

最後になりましたが、ご協力いただいた教科研究員の先生方及び会場校の先生方、そして学習指導研修会にご参加くださり熱心にご協議いただきました先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。